



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年10月31日

上場取引所 東 名

上場会社名 大同特殊鋼株式会社

コード番号 5471 URL <http://www.daido.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 嶋尾 正

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長

(氏名) 林 克彦

TEL 052-963-7501

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日

平成23年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	241,308	5.2	14,562	△10.8	14,226	△10.9	8,383	△25.7
23年3月期第2四半期	229,456	43.5	16,316	—	15,960	—	11,284	—

(注)包括利益 24年3月期第2四半期 5,608百万円 (△30.7%) 23年3月期第2四半期 8,090百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	19.33	—
23年3月期第2四半期	26.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
24年3月期第2四半期	487,570		213,873		37.2
23年3月期	491,721		209,869		36.3

(参考)自己資本 24年3月期第2四半期 181,564百万円 23年3月期 178,348百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	3.00	—	4.00	7.00
24年3月期	—	3.50	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	3.50	7.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	480,000	1.7	30,500	△6.8	30,000	△5.4	20,000	△13.1	46.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	434,487,693 株	23年3月期	434,487,693 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	692,345 株	23年3月期	664,346 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	433,812,731 株	23年3月期2Q	433,842,996 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は【添付資料】P. 4「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
4. 補足説明資料	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災によって一時的な景気停滞に陥ったものの、サプライチェーンの復旧に伴って工業生産は回復を続けており、また個人消費についても自粛ムードの緩和等により持ち直しの動きが見られてきたことから、全体として順調な回復傾向を辿ってまいりました。

特殊鋼業界の主要需要産業である日系自動車産業についても、生産設備の被災と部品供給網の寸断による大幅な減産や夏場の電力供給制約が発生したものの、復旧活動の前倒しや生産シフトの変更等によって当初想定されたマイナス影響が大きく軽減されており、総じて順調な回復が進んでまいりました。

このような経営環境のもと当社グループにおきましては、需要状況が大きな変動を続ける中、柔軟な生産対応を実施してまいりました。なかでも原発事故を起因とした夏季の電力不足については、5、6月での前倒し生産や勤務時間・営業日の変更等による大幅な節電対策を実施し、需要の回復に対処するとともに各種の節電要請にも応えてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの決算実績は、期初において主要需要先の減産影響を受けたものの、その後の需要回復と各種の増産対応を進めたことから、昨年対比の生産・販売数量は概ね横ばいとなりました。売上高につきましては、原材料価格の上昇等があったことから、前年同期比118億52百万円増収の2,413億8百万円となり、また経常利益につきましては142億26百万円と前年同期比17億34百万円の減益、四半期純利益は83億83百万円となりました。

セグメントの業績は、以下のとおりです。

①特殊鋼鋼材

特殊鋼鋼材部門につきましては、第1四半期において震災による自動車関連需要の大幅な落ち込みが発生しましたが、海外需要の拡大を背景に産業機械関連需要は増加いたしました。また工具鋼等のその他需要分野についても、概ね堅調に推移いたしました。

こうした需要環境のもと当社におきましては、需要環境の変化に柔軟に対応しながら生産活動を推進してまいりました。特に夏季電力の節電要請に関しては、勤務時間の夜間シフトなど稼働時間を大幅に変更することで昼間ピーク時間帯の電力使用量を出来るだけ抑制し、また電炉稼働の前倒し生産等によって需要の急激な立ち上がりに対しても対応いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の特殊鋼鋼材の売上数量は前年同期比0.6%の増加となり、また鉄スクラップ、ニッケル等の原料価格の上昇を受けた結果、売上金額については前年同期比4.3%増加の1,463億72百万円となりました。

②電子・磁性材料

高合金製品につきましては、自動車向け製品は震災後の生産回復を受けて堅調に推移したものの、IT関連製品が市況の悪化と在庫調整によって減少したため、前年同期比の売上高は減少いたしました。磁材製品に関しては、IT関連需要の落ち込みがあったものの、電動パワステ用モーター磁石の拡大と中国の磁石製造会社の新規連結化等によって売上高は増加いたしま

した。

その結果、当第2四半期連結累計期間の電子・磁性材料の売上高は前年同期比10.9%増加の212億55百万円となりました。

③自動車部品・産業機械部品

自動車部品関連につきましては、震災による自動車各社の一時的な減産影響はあったものの、その後の生産回復と東南アジア向けトラック需要の拡大等によって売上高は増加いたしました。また精密鋳造品につきましても、海外でのターボ搭載車の拡大を受けて売上高は増加しております。

産業機械部品関連は、国内設備投資の低迷と円高による輸出関連需要の伸び悩みはあるものの、ガスタービン部材等の復興関連需要と資源掘削用部材の拡販などにより前年同期比の売上高は増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の自動車部品・産業機械部品の売上高は前年同期比6.4%増加の531億17百万円となりました。

④エンジニアリング

エンジニアリング部門につきましては、国内需要は低位に留まっているものの、部品・メンテナンス需要およびスポット案件の増加によって概ね前年並みの売上高となりました。また中国現地法人での拡販活動を進めた結果、熱処理炉等の海外受注案件が増加しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間のエンジニアリングの売上高は前年同期比1.2%増加の109億28百万円となりました。

⑤新素材

粉末製品につきましては、震災による一時的な需要の落ち込みは見られたものの、自動車生産の正常化と輸出案件の増加により売上高は概ね横ばいで推移いたしました。チタン製品につきましては、円高の進展によって輸出環境が大幅に悪化したものの、国内チタン市場の回復と在庫調整の進展を受けて売上高は増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の新素材の売上高は前年同期比0.5%減少の46億25百万円となりました。

⑥流通・サービス

流通・サービス部門につきましては、サービス部門において震災による影響が散見されたものの、海外商社の拡販等により、当第2四半期連結累計期間の流通・サービスの売上高は前年同期比9.0%増加の50億9百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ41億51百万円減少し4,875億70百万円となりました。総資産の主な減少の内訳と要因は次のとおりです。

- ・「投資有価証券」の減少73億21百万円…主として保有株式の時価の下落による減少。

また、当社グループの当第2四半期連結会計期間末の少数株主持分を含めた純資産額は、前連結会計年度末に比べ40億4百万円増加し2,138億73百万円となりました。純資産額の主な増加の内訳と要因は次のとおりです。

- ・「利益剰余金」の増加71億9百万円…主として四半期純利益83億83百万円の計上による増加。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は37.2%となり、前連結会計年度末と比べ0.9ポイント上昇しております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の日本経済は、震災による期初の大幅な落ち込みから生産の回復に伴って持ち直し傾向が続いており、また下期以降は自動車生産の上積みに加えて各種の復興関連需要が見込まれることから、当面は堅調に推移していくことが期待されます。しかし一方では、欧米において財政、金融システムの混乱からの景気減速懸念が深まっており、また新興国においてもインフレと金融引き締めによる景気への悪影響が懸念されております。更には円高による輸出環境の悪化やタイにおける洪水被害が日系企業に与える影響も無視できない状況であり、景気の下振れリスクに対して十分に留意する必要があると思われま

す。このような状況を踏まえ、第3四半期以降のセグメントの状況を以下のように想定しております。

①特殊鋼鋼材

自動車関連分野をはじめとした特殊鋼鋼材需要は現在のところ旺盛なものの、海外景気動向に不透明感が強まっていることから、今後の動向を注視しつつ柔軟な生産対応を継続してまいります。鉄スクラップ等の主要な原材料価格については先行きの景気不透明感を反映して安定的に推移しており、上期並みの水準が継続すると考えられますが、投機的資金や景気動向によって大きく変動する可能性があり、サーチャージ制の導入やコスト削減努力に注力してまいります。

②電子・磁性材料

I T関連需要については、世界景気の減速感と関連部品の在庫調整を反映して弱含みの状態にあり、またタイにおける洪水影響が懸念されることから、今後は縮小傾向に移行すると思われま

③自動車部品・産業機械部品

自動車部品関連については、生産正常化後の需要は引き続き旺盛なものの、今後の自動車販

売動向等によって変動するリスクもあり、先行きの動向を注視してまいります。ターボ関連需要については欧州等の環境規制強化を受けて引き続き堅調に推移すると想定しております。

産業機械部品関連については、設備投資の持ち直しや復興関連需要の増加が見込まれますが、先行きの景気や為替動向によって下振れする懸念もあり、今後の動きを注視してまいります。

④エンジニアリング

国内需要は引き続き低位に留まる見通しですが、中国をはじめとする新興国市場での引き合いは活発化しており、営業機能の強化を進めて海外市場の開拓を推進してまいります。

⑤新素材

粉末材料については自動車向けの需要が概ね堅調に推移すると考えております。またチタン製品に関しては、国内市場は堅調なもの円高影響により輸出の低迷が継続すると想定しております。

⑥流通・サービス

流通・サービス部門につきましては、概ね前年並みの需要を見込んでおります。

以上のことから、当期の連結業績につきましては、売上高は4,800億円、営業利益は305億円、経常利益は300億円、当期純利益は200億円となる見通しであり、前回（平成23年6月23日）公表した業績予想を修正しております。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47,471	43,124
受取手形及び売掛金	98,582	103,810
たな卸資産	92,327	92,849
その他	9,481	9,629
貸倒引当金	△339	△360
流動資産合計	247,523	249,053
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	51,386	51,057
機械装置及び運搬具（純額）	61,809	61,801
その他（純額）	41,754	42,622
有形固定資産合計	154,950	155,481
無形固定資産		
	2,370	2,472
投資その他の資産		
投資有価証券	61,763	54,442
その他	25,532	26,531
貸倒引当金	△418	△411
投資その他の資産合計	86,877	80,562
固定資産合計	244,198	238,517
資産合計	491,721	487,570

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	70,918	76,017
短期借入金	48,782	54,181
1年内償還予定の社債	100	100
未払法人税等	5,196	2,389
賞与引当金	6,822	6,911
その他の引当金	397	157
その他	16,261	16,112
流動負債合計	148,478	155,870
固定負債		
社債	30,900	30,850
長期借入金	76,900	63,628
退職給付引当金	6,877	6,954
その他の引当金	1,458	1,205
負ののれん	4	1
その他	17,233	15,187
固定負債合計	133,374	117,826
負債合計	281,852	273,696
純資産の部		
株主資本		
資本金	37,172	37,172
資本剰余金	28,542	28,542
利益剰余金	106,919	114,028
自己株式	△310	△325
株主資本合計	172,323	179,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,961	2,345
繰延ヘッジ損益	△3	△1
土地再評価差額金	1,356	1,356
為替換算調整勘定	△1,290	△1,555
その他の包括利益累計額合計	6,024	2,145
少数株主持分	31,520	32,309
純資産合計	209,869	213,873
負債純資産合計	491,721	487,570

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	229,456	241,308
売上原価	190,569	202,449
売上総利益	38,886	38,859
販売費及び一般管理費	22,569	24,296
営業利益	16,316	14,562
営業外収益		
受取利息	37	45
受取配当金	703	778
持分法による投資利益	394	344
その他	842	803
営業外収益合計	1,978	1,971
営業外費用		
支払利息	1,270	1,190
為替差損	536	556
その他	527	560
営業外費用合計	2,334	2,306
経常利益	15,960	14,226
特別利益		
出資金清算益	63	—
投資有価証券売却益	2	—
その他	8	—
特別利益合計	75	—
特別損失		
投資有価証券評価損	3	1,454
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	473	—
その他	44	408
特別損失合計	521	1,863
税金等調整前四半期純利益	15,515	12,363
法人税、住民税及び事業税	2,784	2,066
法人税等調整額	168	725
法人税等合計	2,953	2,792
少数株主損益調整前四半期純利益	12,561	9,571
少数株主利益	1,277	1,187
四半期純利益	11,284	8,383

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	12,561	9,571
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,208	△3,687
繰延ヘッジ損益	△3	3
為替換算調整勘定	△244	△250
持分法適用会社に対する持分相当額	△15	△29
その他の包括利益合計	△4,471	△3,963
四半期包括利益	8,090	5,608
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,035	4,505
少数株主に係る四半期包括利益	1,054	1,103

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	15,515	12,363
減価償却費	9,871	9,807
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	12	13
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	74
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	5	77
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△62	△492
受取利息及び受取配当金	△740	△823
支払利息	1,270	1,190
為替差損益 (△は益)	192	444
持分法による投資損益 (△は益)	△394	△344
投資有価証券売却損益 (△は益)	1	5
投資有価証券評価損益 (△は益)	3	1,454
有形固定資産売却損益 (△は益)	13	7
有形固定資産除却損	202	248
売上債権の増減額 (△は増加)	△11,033	△4,942
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△7,866	△306
仕入債務の増減額 (△は減少)	8,777	4,813
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	473	—
その他	△1,168	△1,435
小計	15,070	22,157
利息及び配当金の受取額	693	866
利息の支払額	△1,286	△1,188
法人税等の支払額	△652	△4,650
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,825	17,184
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
定期預金の払戻による収入	300	100
有形固定資産の取得による支出	△5,029	△9,654
有形固定資産の売却による収入	8	60
投資有価証券の取得による支出	△216	△10
投資有価証券の売却による収入	15	15
貸付けによる支出	△43	△339
貸付金の回収による収入	115	57
その他	△577	△580
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,428	△10,351

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,810	1,385
長期借入れによる収入	2,965	—
長期借入金の返済による支出	△6,422	△10,487
社債の償還による支出	△50	△50
配当金の支払額	△868	△1,733
少数株主への配当金の支払額	△203	△301
その他	△106	△118
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,876	△11,305
現金及び現金同等物に係る換算差額	△239	△444
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,280	△4,916
現金及び現金同等物の期首残高	35,942	47,341
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	536
現金及び現金同等物の四半期末残高	41,222	42,961

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

(単位：百万円)

	特殊鋼 鋼材	電子・ 磁性材料	自動車部 品・産業 機械部品	エンジニ アリング	新素材	流通・ サービス	合計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注2)
売上高									
外部顧客への 売上高	140,344	19,158	49,916	10,794	4,649	4,593	229,456	—	229,456
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	17,953	1,200	12,351	513	401	3,454	35,874	△35,874	—
計	158,298	20,358	62,268	11,308	5,050	8,047	265,331	△35,874	229,456
セグメント利益	10,479	1,115	3,234	803	49	640	16,322	△5	16,316

(注)1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

(単位：百万円)

	特殊鋼 鋼材	電子・ 磁性材料	自動車部 品・産業 機械部品	エンジニ アリング	新素材	流通・ サービス	合計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注2)
売上高									
外部顧客への 売上高	146,372	21,255	53,117	10,928	4,625	5,009	241,308	—	241,308
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	17,716	570	11,980	798	384	4,240	35,690	△35,690	—
計	164,089	21,825	65,097	11,727	5,009	9,249	276,999	△35,690	241,308
セグメント利益	9,536	1,011	2,305	735	236	738	14,563	△1	14,562

(注)1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

